

受け継ぐ わざを

より喜ばれる

義肢・装具を作るために
伝える技、受け取る思い

株式会社 佐々木義肢製作所(仙台市)



義肢・装具製作技能士(1級) 高橋 英悟さん Eigo Takahashi



東北を代表する

義肢・装具製作の老舗

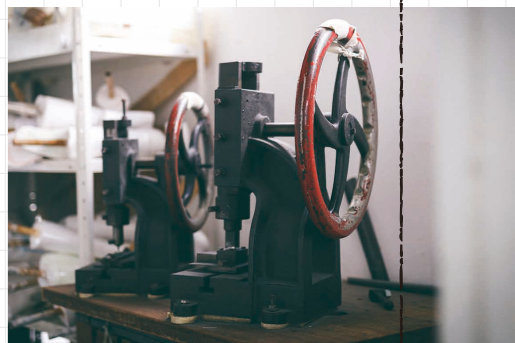
最新技術で

使用者負担を軽減

株式会社佐々木義肢製作所は1936年創設の老舗で、仙台市を本拠に東北地方で事業を展開し、仙台本社のほか、秋田支店、弘前支店を構える。取扱品目としてメインとなるのは義肢、装具だ。義肢は義手、義足に大きく分かれ、切断した手足の形態、更には機能を復元するために装着する人工物である。一方、装具はげやが病気で身体機能が低下したとき、もしくは、失われたときに補助を目的に使用したり、変形予防や矯正のために装着したりするものを指す。

くさがねなど用具を駆使し、義肢・装具づくりは行われる

企業としての大きな特徴は、最新技術を用い、製品づくりを行っていることだ。他社に先駆け、寸法と画像があれば義肢



最先端設備を導入しつつ、昔ながらのエキセンプレス機(通称、穴開け加工機)も活用

装具の製作が行えるP&O(義肢装具CAD/CAM)を導入。CADを使ってパソコン上で加工を行い、そのデータをCAMで自動切削することで作業効率を大幅に向上させている。痛みにより採型の姿勢を取ることが困難な場合には、装着部位の撮影、採寸だけでも製作が可能であり、使用者の負担を減らせるのもメリットだ。

佐々木義肢製作所をはじめ民間企業にとって義肢、装具の製作は、明確な役割分担を持って行うことが多い。医師とやり取りをし、患者と接して採型や採寸を行うのが義肢装具士で、義肢装具士を通じて取り入れた情報から、それを具体的な形にするのが義肢・装具製作技能士だ。義肢装具士は国家資格で、資格がないと業務にあたれない。義肢、装具の実製作は特段、資格は必要としないものの、義肢・装具製作技能士という国家資格があり、いわばプロとして任にあたる人は多い。



義肢装具士 小川 琢人さん Takuo Ogawa



経験豊富な

義肢・装具製作技能士が

教えがいある後輩を支える

屈託なく相手の懐へ飛び込み、積極的にコミュニケーションを取る小川さんは、社内の「愛されキャラ」だ。そんな小川さんの姿をほほ笑ましく思っている一人が義肢・装具製作技能士(1級)の高橋英悟さん(40)。「小川君は多少厳しく接してもへこたれないというか(笑)。そこは彼のすていところだ。一方、小川さんは「英悟さんは難しい案件でも、簡単にノーと言わないですし、できない理由を探さないんです」と尊敬の念を抱く。

高橋さんは小川さんの成長に目を細めつつも、「教えることはまた山ほどある」と話す。小川君が入社して1年3カ月ほどですが、教えることは9割以上残っています。小川さんも自身の課題にしっかり向き合っている。「こんなときはこうすればいいんだ、という知識、引き出しを増やしていかなければなりません」高橋さんが小川さんにかかる期待は大きい。自身のかなわなかった思いがあるからだ。「私は義肢装具士になりました、なれなかった人間なんです。それでも何とか、義肢、装具の製作に携わり、困っている人たちの一助になりたいという一心で義肢、装具を作り、義肢・装具製作技能士の資格も取得しました。小川君にはぜひ、大きな困難があったとしてもそれを乗り越えて、義肢装具士としてもっともっと自分を高めてもらいたい」常に笑顔でたたえながら話す小川さんと穏やかな表情の高橋さん。年の離れた二人だが、頼もしい兄と、その兄に導かれる弟のようでもあった。

株式会社 佐々木義肢製作所

所在地 仙台本社: 〒980-0801 仙台市青葉区木町通 2-3-3 □代表取締役/佐々木和憲 □資本金/1,000万円 □設立/1937年3月
 □従業員数/56人 □事業内容/義手・義足・各種装具類・コルセット製作および修理、車いす・補助ステッキほか販売、靴製作・インソール販売
 TEL 022-274-1181 http://sasaki-gishi.co.jp/

「日々、勉強中」の小川さんを高橋さんがしっかりサポートする

日々、勉強中
 駆け出しの義肢装具士は
 懸命に自身の成長促す

大学で資格を取得し、2019年4月から義肢装具士として仙台本社で働く北海道出身の小川琢人さんは23歳。「まだまだ日々勉強中です」と現状を語る。「高校は札幌市にある北海道科学大学高等学校に行き、在学時に将来は手に職をつけたいと考えました。系列の北海道科学大学には義肢装具士を養成する義肢装具学科があり、これだ、と思いついて義肢装具士を目指すことにしました」